

道路下水道局の取り組み

安全・安心なまちづくり

道路下水道局は、市民の安全・安心と快適な生活を守るために必要なインフラである「道路」「河川」「下水道」の計画・整備・維持管理を行っています。



道路事業

市民の安全・安心を確保するため、交通安全対策や道路のバリアフリー化などを進めるとともに、都市の魅力に磨きをかけるため、幹線道路の整備や踏切をなくす連続立体交差事業、無電柱化などを進めています。

道路下水道局が管理する
道路施設

道路延長 約3,855km

橋りょう 1,980橋

道路照明 37,037基

※平成28年度末時点

西鉄天神大牟田線 連続立体交差事業（雑餉隈駅付近）

河川事業

道路下水道局が管理する
河川

延長 約169km

109河川

24水系

※平成28年度末時点

大雨による洪水から市民を守るため、過去に浸水被害が発生した河川の改修を進めています。
また、大雨の際に雨水を一時的に溜める治水池の整備も進めています。



都市基盤河川改修事業 周船寺川(西区田尻)

下水道事業

衛生的で快適な暮らしを支えるとともに、浸水からまちを守るため、下水管及び処理場・雨水ポンプ場などの整備や地震対策などを行っています。また、下水道資源の有効利用を図るため、下水処理水の再利用や下水バイオガス発電などの取り組みも行っています。

道路下水道局が管理する
下水道施設

管路延長 約7.144km

ポンプ場 67か所

水処理センター 6か所

※平成28年度末時点



雨水管の中の様子

雨水整備レインボープラン天神で整備中の雨水幹線の特設人孔(マンホール)

2～3ページ

安全・安心な生活を支える
道路のいろいろな働き

4～5ページ

安全・安心な生活を支える
総合的な水害対策

6～7ページ

下水道のお金の話
道路整備アクションプラン2020
下水道ビジョン2026

8ページ

市民の皆様への
お知らせとお願い

安全・安心な生活を支える道路のいろいろな働き

道路サポーター制度について

福岡市が管理する道路において、道路の清掃・美化及び破損箇所の通報等の活動を行っていただける地域団体及びボランティア団体等を募集しています。詳しくはHP「福岡市道路サポーター制度」で検索をご覧ください。

バス停へのベンチの設置について

バスを利用される方々のためのバス停ベンチは、バス事業者だけでなく、地域団体の方々にも設置していただくことができます。ベンチ設置費用や維持管理費用に充てるため、広告を掲示することもできますので、ご検討ください。詳しくは路政課(電話: 711-4458, FAX: 733-5591)にお問合せください。

道路は、通勤・通学、買い物など私たちの日常生活や経済活動を支える最も基本的な社会資本(インフラ)であり、人や車が通行する「交通」の機能に加えて、下水道や水道、電線などの公共公益施設を収容したり、採光や通風、防災のための「空間」の機能も有しています。

道路は、私たちのまちのすみずみまで張り巡らされ、福岡市が管理する道路だけで約3,855km(平成28年度末時点)あり、安全・安心で快適な生活を支えています。

役割

1

収容空間

下水道や水道、電気、ガス、通信(電話)などのライフラインを収容する役割を担います。さらに、地下街や地下鉄が通る空間になります。

役割

3

健康・環境保全

ウォーキングやサイクリングなど健康づくりの空間や、太陽の光が差し、風が通る空間となります。

役割

2

交通施設

歩行者や自転車、自動車などの人や物の交通網としての役割を担います。

役割

4

都市形成

都市全体の骨格を形成し、市街地や都市発展の一翼を担います。また、災害時の避難路や防災活動の場、火災時の延焼防止などの空間となります。

このような箇所を見つけたらお知らせください

1



道路の破損
くぼみがある。陥没している。

2



防護柵の破損
ガードレールが曲がっていたり、折れている。

3



カーブミラーの破損
鏡が割れている。鏡の向きがおかしい。

4



側溝蓋の破損
蓋が割れている。落ち込んでいる。

5



側溝のつまり
砂やごみが溜まっている。

6



照明灯の破損等
暗くなってもつかない。明るくなくても消えない。

乗り入れブロックは設置しないでください

道路上の乗り入れブロックなどの設置は違法ですので、すべての人が安全・安心に通行できるよう撤去をお願いします。なお、車庫への出入りなどのために歩道の切り下げが必要な場合には、自費で工事を行うことができます。詳しくは、右記お問合せ先までご相談ください。



路上に置かれた乗り入れブロック



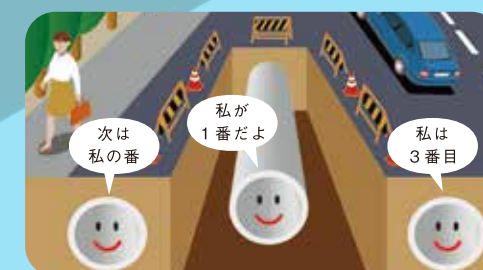
自費切り下げ工事後

お知らせ・お問合せ先

区役所・出張所	担当	TEL	FAX
東区役所	維持管理課	645-1057	632-8999
博多区役所	維持管理課	419-1062	441-5603
中央区役所	維持管理課	718-1084	718-1079
南区役所	維持管理課	559-5092	559-5096
城南区役所	維持管理課	833-4078	822-4095
早良区役所	維持管理課	833-4338	841-6687
早良区入部出張所	道路下水道維持第2係	804-2455	804-2026
西区役所	土木第1課	895-7047	882-2137
西区西部出張所	土木第2課	806-0411	807-3080



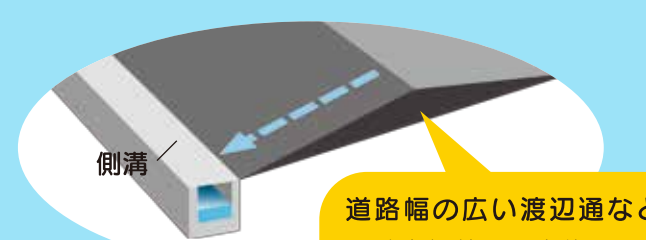
道路工事が年度末に多い理由は？



A. その理由のひとつとして、道路を改良したり維持・修繕したりする工事は、毎年4月以降に工事が発注され、翌年の3月末までに工事を終わらせるようになっていることが挙げられます。工事を行うためには、事前準備が必要となり、すぐに工事にとりかかることは少なく、また地面を掘るような大規模なものは、地下の水道管やガス管などライフラインを管理している会社と調整を行いますので、結果として準備を終えて実際に工事を行うのは、年度後半に偏りがちになってしまいます。



道路の中心あたりが若干高くなっている理由は？



道路幅の広い渡辺通などでは高低差が最大約30cmになるところもあります!!

A. 幅の広い道路を渡っていると、中心あたりが一番高くなっていることが分かるかもしれません。これには理由があり、雨が降った時、このわずかな傾きを利用して雨水を道路の端にある側溝に流し、路面上に溜まることを防ぐためです。路面上に雨水が溜まると、その上を走る車がスリップして事故の危険性が増したり、歩行者に水を跳ねて汚したりしてしまいます。(※片側のみ側溝がある場合などは、例外もあります。)

安全・安心な生活を支える総合的な水害対策

〈河川改修〉

河川が氾濫しないよう、川の幅を広げたり深くすることで、より多くの水を流せるようにしています。また、市民の皆様が都市の貴重な水辺空間である河川に親しめるよう、環境整備も進めています。



改修前の河川の状況(金屑川)



改修後の河川の状況(金屑川)

Q 河川工事が年間を通してできない理由は？

A. 福岡市では、原則として6月から9月にかけては河川工事を行っていません。これは、この期間が梅雨や台風などの影響で雨が多いためです。

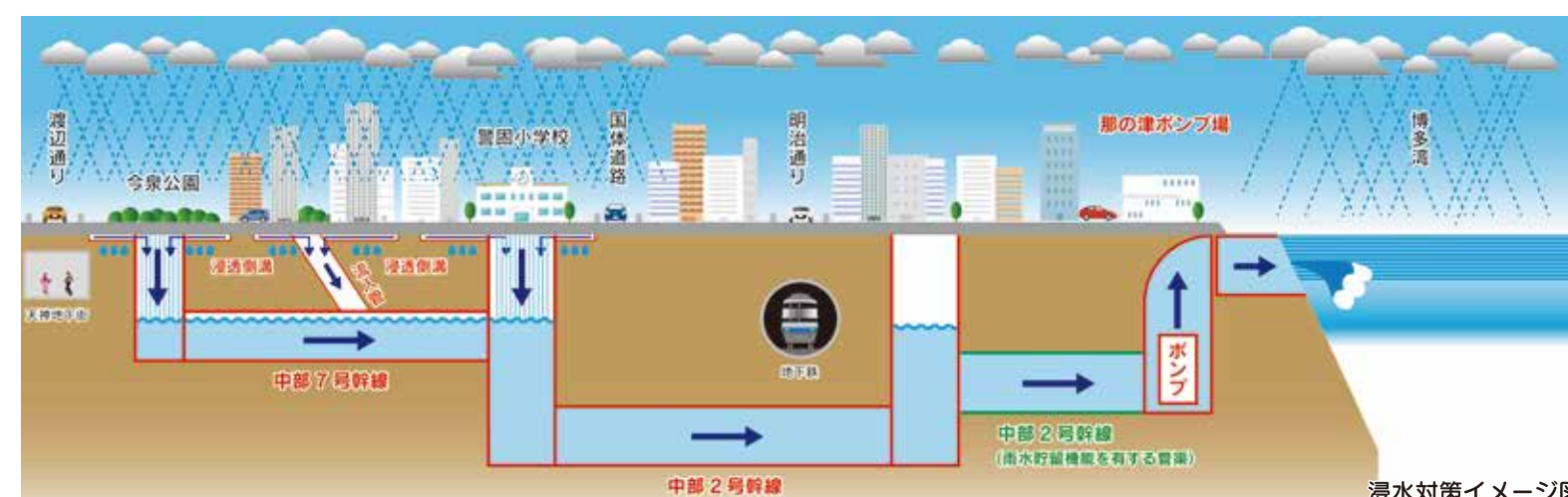
河川の工事では、川の中の一部を閉め切るなどの作業が必要なため、どうしても一時的に河川が狭くなってしまいます。そうすると洪水が発生する危険性が高まることになります。このため、河川工事は雨が比較的少ない10月から5月にかけて行っています。

〈雨水幹線の整備〉～雨水整備レインボープラン天神～

天神周辺地区では、従来より整備の水準を強化した「雨水整備レインボープラン天神」を策定し、雨水貯留管や浸透施設等の整備を進めています。現在、第1期事業として、平成30年度までの完了を目指し、1時間に59.1mmの降雨を排水できる施設の整備を進めています。



中部二号幹線



浸水対策イメージ図

〈治水池〉

局地的な大雨から市民を守るため、市内各地に雨水を一時的に溜める治水池の整備を進めています。



新開池(晴天時)



新開池(雨天時)

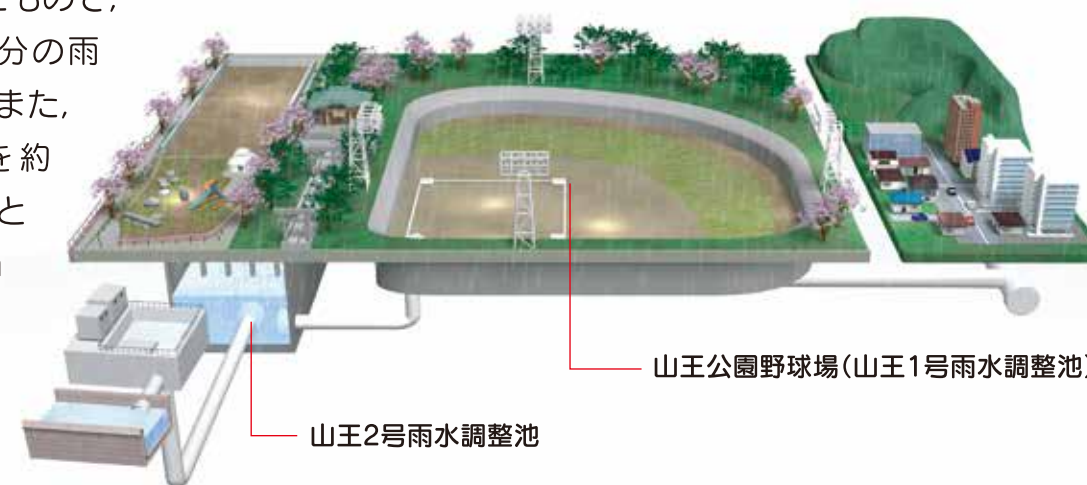
〈雨水調整池〉～山王雨水調整池～

平成11年・15年に甚大な浸水被害が発生した博多駅周辺の浸水対策事業として、従来より整備の水準を強化した「雨水整備レインボープラン博多」を策定し、その事業の一つとして、山王公園(博多区山王)に雨水貯留を目的とした山王雨水調整池を整備しました。

この施設は、大雨の際に、一時的に雨水を溜めて浸水を防ぐ役割があります。山王2号雨水調整池(写真)は、公園の広場地下に設置したもので、25mプール約41杯分の雨水を貯留できます。また、山王公園野球場を約1.8m掘り下げたことで、こちらにも25mプール約36杯分の雨水を貯留できます。



山王2号雨水調整池



山王公園野球場(山王1号雨水調整池)

山王2号雨水調整池

短い時間に大雨が降ると、行き場のない雨水が道路にあふれてしまいます。福岡市でも、平成11年をはじめとして甚大な浸水被害が発生しました。このような水害を繰り返さないため、河川改修や雨水幹線の整備、水路等への雨水の流出の抑制、避難活動や水防活動などによる被害軽減対策を一体的に進める総合的な水害対策に取り組んでいます。

過去の大雨時の状況



地下鉄博多駅



周船寺川

〈透水性舗装〉 〈浸透側溝・ます〉

一部の歩道では透水性舗装を行っています。これは、舗装を水が通りやすい構造とすることで、雨水を地面に浸透させ、雨水の流出を抑制するものです。さらに、樹木の育成環境が改善されたり、地下水の量が増加したりすること、また「ヒートアイランド現象」の抑制などの効果が期待できます。また、側溝やますの底を砕石で充填することで、集水した雨水を地中に浸透させる施設を浸透側溝・ますと言います、同様の効果があります。

